
少女リリカルなのは ~ 主要人物の家族なのに乗り気にならない転生者とハレームを目指す

蒼鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは ～主要人物の家族なのに乗り気にならない転生者とハレームを目指す奴～

【Nコード】

N0540S

【作者名】

蒼鬼

【あらすじ】

ひよんな事で死んでしまった俺。

しかも、女神が現れて俺を『魔法少女リリカルなのは』の世界に転生させると言う。俺はそんな気ないのに逆に女神が乗り気！

転生するのはいいが原作は知らないし、って言うか俺あんまりラノベとか漫画の方しか読まないからアニメが原作っていうのは余り見ないから関与する気にもなれない。

だが、俺はその中の主人公の一人フェイト・テストロッサの兄に転

生してしまう。いや、実際はアリシアと言う妹の兄だけど・・・折角地球に来たのに平和は消え去って行く。ジュエルシード？闇の書？知るかそんな物！管理局？1割信用で9割嫌悪だ。ジェイルスカッテイ？まだいいや。

そんなこんなで住んでいる地球が無くならない様にその位の感じで頑張ります。

よくある始まり方（実際プロローグにもならない）

今日一日の出来事を思い出してみよう。

今は春休み、夜遅くまでバイオハザードを見てから寝て起きたのが10時。

それから朝兼昼飯を食べ『涼宮ハ○ヒの消失』を映画館に見に行き（ちなみに、上映時期が遅い地区）

それから、新作のコミックスやゲームを購入した後家に帰ろうとしていたところ、小学生が信号無視して渡ろうとしていた所にトラックが!!

俺はその場の流で走り出し小学生を突き飛ばし変わりに俺がトラックにはねられたのだ。

『要するに俺は死んだのか』

「ハイ、非常に申しにくいのですが・・・」

俺は声のする方向に振り向くと其処には神々しいような少女と幼女がいた。

『誰?』

「私はリンカ。一般的には女神と呼ばれています。こちらは妹のネミル。実は非常に言いにくいのですが貴方が死んでしまったのはこの子のせいなんです。」

『・・・とっ言つとっ?』

「そこは、私が説明します。」

幼女もといネミルが簡単に説明する。

姉のリンカの仕事を手伝いをしている時に俺の寿命紙を破いてしま

った為に小学生が死ぬ筈が俺が死んでしまったと言う訳だ。

「一応・・・ゼロハンテープでくつつけたのですが、やっぱり無理だった様で」

『何でだよ！！ゼロハンで生き返ったら命の重さ軽いと思うじゃないか！？生き返ったとしてもあんなグチャグチャな体に戻りたくないねえし周りは引くよ！！』

「お気持ち御もつともです」

『もういいや、天国でも地獄でも何処でも連れてってくれ。』

それを聞くなり女神は何とも言えぬ表情で、

「言いにくいのですが、今貴方はどちらも行か場所がないのですよ。私達の責任でもありますし、もしもこの事態がお母様に知られたら」「こ、殺される。」「」

姉妹は体を震わながら言う。相当お母さん子怖いんだな。

「だから、貴方には転生して貰おうと思っ私達が来たのですよ。」

『でっ、転生先は何処なんだ？』

「『魔法少女リリカルなのは』ですう。」

ネミルは何処からともなくDVDを出す。

『うわゝ、すっげえ定番』『それでチートなんですけどFate何かどうでしょう？』「またもや定番』」

「わがままだな君。じゃあ、どんなのがいいの？」

リンカはマンガのような文句を言う様な表情で俺に聞いてくる。

『俺はごく平和な生活がしたい』『ごめん。それ無理』「オイオイじゃあ俺のチートは対有機生命体コンタクトヒューマノイドインターフェイスとか『ごめん、それ無理』却下かよ。』」
コンマ秒と言う速さで能力を却下する女神達。

「まあ、チート過ぎるのも大変なんですよ」

『はあ、じゃあ一つは身体能力向上だな。あとスキマ能力が瞬間移動のどっちかと武器はそうだな・・・喰霊の舞蹴で』

「これまた珍しい作品名が出ましたね。思い切って武器を閻魔刀にしたらどうです？」

『じゃあ、それもお願い。あとは使い魔とかいると助かるといいのにな』

「あつ、それなら使い魔より役に立つのが四人といいますが・・・そのらのおとしもの』のイカロス・ニンフ・アストレアら其方を向こうの世界で時期が来たら送ります。他にはいいですか？」

『そうだなあつ、飛行能力と水上歩行能力さえあれば問題ないや以上』

俺が要望を言い終わるとネミルが俺に

「ねえ？どうですか？内のお姉ちゃん。可愛いし綺麗でしょ？でも恥ずかしがり屋だから中々恋愛に疎いの」

『えっ？どうということ？何でそれを俺に振る？』

「ちょっとネミルいい加減な事言わないの！」

コツンとネミルの頭を叩くリンカ。

「お姉ちゃん痛いよ。別に人前で小突かなくてもいいじゃない！？」

「貴女が出鱈目を言うからでしょ」

『それでだな、俺あまりリリカルなのは知識知らないんだけど？』

「別にしらなくても貴方は転生するという形で何らかで関わっていい事になります。」

「それと、他の世界から来る人達もいるから気をつけてね」

『えっ？それってどういう「それでは行ってらっしゃいませ〜」なっ！うおおおおああああ』

ネミルは何処から取り出したのか片手サイズの起爆ボタンらしきものを押すと俺の足元は崩され俺は暗い闇のそこに意識と身を落とす

て
い
っ
た
の
だ
っ
た
。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0540s/>

魔法少女リリカルなのは ~ 主要人物の家族なのに乗り気になれない転生者

2011年3月30日19時37分発行